

(様式1)

## 自己評価票

成日 平成 21 年 11 月 1 日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872000948		
法人名	(株) キュート		
事業所名	グループホームたんぽぽ	ユニット名	2階
所在地	〒305-0861 茨城県 つくば市谷田部 3393-1		
自己評価作成日	平成21年11月1日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	
-----------------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内
訪問調査日	平成21年12月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「思いやりと笑顔・一人ひとりの生き方を大切にする・地域の人達の交流に参加する」を理念とし、利用者が穏やかにその人らしい生活ができるよう全員で実践している。また、個人が興味を持っているものを尊重し、書道や絵画、園芸、製作、歌などをクラブ活動として行い、発表の場を設けている。特に、散歩した時に発見した自然の植物などを生かし作ったリースや生け花は利用者、家族にとっても好評を得ている。地域との交流では、自治会に入り、缶拾いや地区の祭りに参加させて頂き、地域の方々との交流を深めている。館内で飼っている犬は、利用者、職員、来客にとって心安らぐ存在となっている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人達の交流に参加します」の理念を掲げ、地域で行われる缶拾いに参加したり、たんぼぼ内の行事に地域の人々が参加できるよう案内し、協力して頂いている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧を回してもらっている。近隣のタバコや、床屋など必要時利用している。散歩に出掛けた時は、挨拶を交わしたり、野菜や花を頂くこともある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たんぼぼ通信の中に認知症に関する情報（初歩的なもの）を掲載している。通信は床屋さんに置いて頂いている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見を尊重し、サービスの向上につながるよう検討している。実際に会議で利用者家族より、AEDの設置の希望が上がり、検討した結果、10月より設置が実現した。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での関わりのほかにも、高齢福祉課担当職員と連携をとりながら、協力関係を築いている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、つねに意識できるように、トイレの壁に貼っている。施錠に関しては、2階、3階は入り口のすぐ近くに階段があるため、安全を考慮し、施錠をしているが、利用者の希望があれば、すぐに開錠している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターの方から、虐待に関する講義を受ける機会があり、参加できる職員は、そこで学ぶ機会を持つことが出来た。講義を受けたものは報告書を提出し、講義を聞けなかったものへも、その内容を伝え、虐待をしないという共通認識を再確認し、防止に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	7と同じように、地域包括センターの方から、講義を受ける機会を持つことが出来た。必要があれば、関係者と話し合い、活用できるよう支援していくつもりである。
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと説明し、理解していただけるように心がけている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、自由に記入できるように準備を整えている。また、家族アンケートを実施し、家族が意見や要望などを伝えやすい方法を実施している。 (実際のアンケートで、ケアプラン作成時の話し合いに参加したいとの要望が出され、話し合いの予定を伝え参加を呼びかけたり、参加できないときはその内容についての報告を行うようにしている)
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案、相談などがあれば随時聞き、内容について検討している。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定時で仕事を終わらせる環境を作っている。その中で、職員の努力、実績、勤務態度を把握し、やりがいを持てるように責任をもってもらいそれに見合った給与を段階的に上げている。
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を職員の目に触れるところに掲示し自主的に研修にいけるように環境を整えている。又、その人に合った研修を勧めている。
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	つくば市地域密着型サービス連絡会を通じた交流や勉強会に参加している。又、他のグループホームの見学を数人ずつ行い、他の職員に報告し、サービスの質の向上につながるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の話に耳を傾けている。また本人の生活の様子、表情から、本人が求めていることを、推し量り、安心して生活するための関係作りに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を尊重し、サービスを開始しているが、利用者の日々の変化をその都度伝え、家族と対応を検討しながらサービスを行うことでお互いの信頼関係を築いている。	
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、必要な支援について話し合い、サービスを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と同じ目線に立ち、出来ることを共にやっている。また、利用者から受けた行為や言葉に感謝したり、心が癒される場面が日常の中に多々あることを感じながら、介護にあたっている。	
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係は何者にも変え難いものととらえている。家族によってはいろいろな理由から一緒に過ごす時間がなかなか持てないようだが、本人の様子や、イベントの案内などを随時行い、離れていてもお互いを感じていられるように支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をしたい時、手紙を書きたい時は、その都度支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の空間の座席は、利用者同士がスムーズに関わり合いが持て、利用者が孤立しないように配慮している。興味のある活動に参加することで利用者同士の関わりが深まるようである。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった利用者に対しては、これまでの生活が継続できるようホームでの生活の様子やケアの工夫など必要な情報を伝え、経過を見守っている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握は、その方の言葉だけでなく、表情や、行動からの観察も合わせて行い、その情報は職員間で共有している。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人、家族から、聞き取りをしたり、入所前に利用していたサービスに関しては前のケアマネより情報をもらったりしている。入所後も本人との関わり合いの中から知り得た情報は記録に残している。
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、本人の様子の観察を行っている。1日の出来事、様子、本人が話したこと、なぜそう思ったか、どう支援したかを毎日の記録に残している。職員は必ずその記録を確認するようにしている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の定期的な見直しを必要な関係者と行い、現状に即した介護計画を作成している。家族の同席は時間の関係でなかなか難しいが、希望を聞き介護計画に取り入れている。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫をそれぞれ整理して記入できるようにし、職員間で情報を共有して、介護計画に生かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化により、必要な通院の介助をしたり、リハビリを希望している利用者の付き添いを行ったり、出来る限り柔軟に対応している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のタバコ屋やお気に入りのコンビニに買い物に行く、図書館に本を借りに行く、カラオケハウスに行くなど本人が望む暮らしが出来るように支援している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医師の受診を支援している。受診に際しては、必要な情報を伝えている。
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師はいないため、かかりつけ医に、心配事を相談し適切な指示を受けて支援している。
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、お互いに必要な情報交換をして、安心して治療ができ、早期退院につながるよう関わっている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方について、本人家族と話し合い、家族の意向や、主治医の意見を確認しながら、方針を共有し支援に取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や応急手当の方法を年1回消防署職員の指導を受けている。カンファレンスでは指導を受けた振り返りを定期的に行っている。
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に1～2回の非難訓練を実施し、非常時に対応できるように備えている。また、自治会を通して地域の方たちの協力をお願いをしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生き方を尊重しますという理念を実践している。利用者は人生の先輩であることを忘れず、日々関わっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から思いを気軽に話してもらえよう会話する時間を作っている。答えやすいように、分かりやすい表現で伝え、自己決定できるよう関わっている。	
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方がその日一日どのように過ごしたいか、一緒に考え、過ごし方を決定するように関わっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣服は、本人と決めるようにしている。特に女性利用者とは、化粧や髪型についても相談して希望に沿うように支援している。男性利用者に対しては、髭剃りの支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のしたい気持ちを尊重し、食事の準備では、野菜を切ったり、皮をむいたり出来ることを共に行っている。食事も同じテーブルでとり、同じ食事を味わいながら、楽しい時間として過ごしている。配膳、片付けも共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、形状（刻み、お粥、とろみ等）は本人の状態に合わせて、調整している。水分も飲みたい希望があればいつでも提供できるようにしている。摂取量も記録に残している。	
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けを行い、誘導したり、見守りをしたりその方に必要な関わりをしている。意思疎通が難しく、洗面所までいけない方には、食事の後、その場で口腔ケアできるようアプローチし、成功した例があった。その方に応じた対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握できるように記録に残し、利用者に応じたトイレ誘導を行っている。
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂取できる食事を提供している。水分、乳製品も定期的にとれるようにしている。どうしても便秘傾向になってしまう方には、医師と相談し内服薬を調整し定期的に排便があるようにしている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきという入浴が習慣になっているが、本人の希望やタイミングに合わせて出来る限り入浴を支援している。
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるように日中の活動を促し、規則正しい生活を支援しているが、本人の体調や希望を尊重している。
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬についての薬剤師を招いて勉強会を行い、目的、副作用、用法などの理解を深めている。また、服薬ミスを起こさないよう、声だし確認、二重チェックを行なっている。
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来ることが継続できるように、役割を持って生活して頂いている。（食器の片付け、拭き掃除、洗濯物干し、たたみ、食事の号令など）又、生け花、書道の活動や買い物、散歩など利用者の体調に応じ支援している。
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に戸外に出られるよう支援している。特に季節を感じられるように、近隣の桜や紫陽花の名所や花火大会を見に出掛けることができた。



自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望があれば、小遣い程度のお金を所持して頂いている。所持していなくても、きちんと管理しており、必要な時は用意できることを伝えている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があった時はすぐ電話できるように対応している。手紙もいつでも書けるように準備はあり、手紙を頂いた時、返事を書くように声掛けしている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>館内は清潔にし、適温で過ごせるように管理している。季節の花を飾ったり、行事ごとの写真を掲示したりしている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>カウンターや、畳スペース、いすなどがあり、利用者は好きな場所で過ごせるようになっている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の生活スタイルに応じて、畳、フローリング、ベット、布団、コタツなどを選び、馴染みのものを置いて居心地よく、安心して生活できるようにしている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関にはベンチを置き、利用者が安全に靴がはけたり、そこに腰掛けて休んだりできるようになっている。廊下、トイレ、浴室などには手すりがある。トイレや居室は分かりやすいように、大きく名前を貼ったり、目印をつけて場所の混乱を起きにくくしている。</p>

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない